

東北地方太平洋沖地震被害に係る全国ブロック支援活動報告について

(1) 支援先自治体及び状況

支援先：宮城県阿武隈川下流流域下水道

(2) 支援人数

- ・ 静岡県班（4人）：石野好彦（静岡県・土木）、鮫島良博（磐田市・土木）、富田康之（藤枝市・土木）、八木剛（菊川市・土木）
- ・ 石川県班（5人）：久田勝一、谷内貴章（石川県）、加藤泰寛、高橋憲一郎、（小松市）、北川博行（能美市）、三重県班（4人）：宮本儀信（三重県）、杉山卓志、坂上正美、杉浦優（四日市市）と共同調査

(3) 支援期間

- ・ 平成23年4月5日（火）～平成23年4月11日（月）
- ・ 5日（火）：静岡県庁出発→滞在先（宮城県蔵王町）到着
- ・ 6日（水）：宮城県庁打合せ、中南部下水道事務所（仙台土木事務所内）打合せ、現場確認
- ・ 7日（木）：阿武隈川幹線一次調査（丸森町～角田市）
- ・ 8日（金）：阿武隈川幹線一次調査（角田市～柴田町）
- ・ 9日（土）：阿武隈川幹線一次調査（柴田町～岩沼市）
- ・ 10日（日）：県内浄化センター被災状況調査、仙台幹線暫定放流状況等調査
- ・ 11日（月）：宮城県庁に調査終了を報告後出発→静岡県庁到着

(4) 下水道管渠の状況

阿武隈川下流流域下水道の幹線管渠（管路延長：90.3km、阿武隈川幹線、仙台幹線、白石川幹線、亘理幹線、村田幹線、大河原幹線、蔵王幹線）のうち静岡県班は阿武隈川幹線及び放流渠を調査。約1／3のマンホールが被災していたが、幹線管渠上の舗装に沈下等が認められたのは3スパン程度であった。

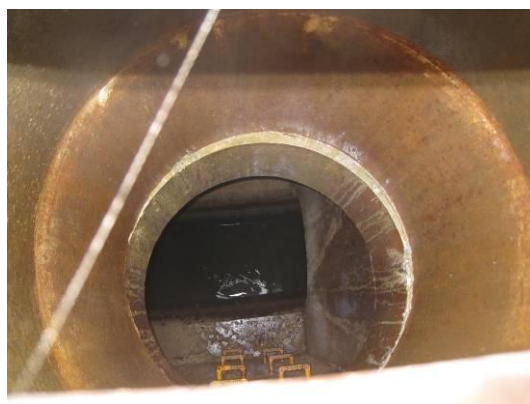
- ・ 調査延長：35.047km（170スパン）
- ・ 被災マンホール数：63箇所
- ・ 被災類型
 - ① マンホールの隆起又はマンホール周りの舗装の沈下
 - ② マンホールの破損又はズレ
 - ③ マンホール内滞水
 - ④ 管渠上の舗装沈下

【被災状況写真】

①



②



③



④



(5) 一次調査の活動状況

阿武隈川幹線について通行困難な箇所を除き、上流から下流へ全線の幹線上の路面の変状とマンホール内部の状況等を目視により調査した。

【マンホールの蓋色々】



【作業状況】



(6) 支援活動を通しての感想

- 学生時代の4年間で仙台で過ごしたこともあり、災害復旧に少しでも役に立てればとの思いで今回の支援に参加したが、当日の調査が終了し宿舎へ戻る途中の信号待ちの時、後続の車からわざわざ降りてきて『遠くから来てくれてありがとう』と感謝の言葉を掛けて頂いたり、車輦がトラブルに見舞われた時、ディーラーの方に『折角応援に来てくれたのだから』と暖かな対応をして頂いたりと、被災された現地の方々からかえって元気や勇気を頂いた調査でもあった。

- ・ 東北地方太平洋沖地震は、この数百年間に発生した地震の中でも大きな方から数えて片手に収まるというマグニチュード9以上の超巨大地震と言われているが、阿武隈川幹線の調査を9割程度終えた段階では、それ程大きな地震に見舞われたという印象はなかった。
- ・ しかし、仙台東部道路のアンダーパスを通り抜けた瞬間付近の様相は一変し、想定を遙かに超えた津波の規模と破壊力を目の当たりにした。



- ・ 友人が阿武隈川河口砂洲の地形変化を卒業論文のテーマにしていたこともあり、何度か訪れた当地に二十数年ぶりに立って見ると、意外に前面の護岸は健全であったが、堤内側は目を覆う状況であった。



- ・ 数値シミュレーションには、いくつかの定数等に想定があり、想定外に対して構造物の設計には安全率が加味されている。さらにそれらを越えた事態でも最低限生命の安全は確保できるようにと、ハードにソフトを組み合わせた防災対策が進められているところであるが、今回の津波被害の状況を見ると、常に想像力豊かに想定外の想定を行っていくことが重要であると感じた。
- ・ 最後に被災地の日でも早い復興を祈念すると共に、また、今後とも微力ながら支援をしていきたいと思う。